

単元名 跳び箱を使った運動遊び

日時：平成29年5月15日～6月1日

場所：和歌山市立中之島小学校 体育館

学級：2年1組 19名（男子8名 女子11名）

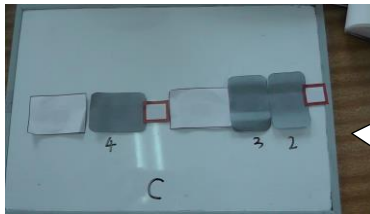
授業者：小林 祐子

こんな授業に・・・

いろいろな遊び方に、より取り組んでいてもらいたいと考え、「さまざまな場で、跳び乗ったり跳び下りたりすること」が中心的な面白さであるとした。そこで、跳び乗り・跳び下り・跳び越しなどを、いろいろな場で挑戦できるように、場づくりを工夫した。

SD 課題・・・基本的な動きを身に付ける運動遊びを楽しく行う。

AD 課題・・・身に付けた動きを工夫して運動遊びを楽しく行う。

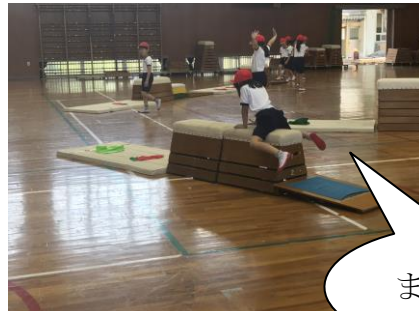


グループで
考えた場



またぎおり

よことび



またぎのり

パーとび



かんそう

- ・またぎおりが3かいでできました。〇〇くんがさいしょ7かいだったのが、2かいでできるようになってすごいと思いました。
- ・力いっぱいできました。りょう足でふんどびばこをりょう手についてできました。
- ・〇〇くんのきょうりゅうとびを見ました。まねしたいです。
- ・あたらしいわざは、〇〇くんが3だんと3だんのところで2かいでまたぎのりをしていて、1かいでできるかな、と思ってやってみたら、1かいでできました。うれしかったです。みんなにもすごいと言われたから、もっとうれしかったです。
- ・とびばこが2だいかさなってるところで、よことびをいったりきたりしてあそびました。
- ・パーとびを5だんととぼうと思ったら、とべなかったから、〇〇くんがこつを教えてくれて、うれしかった。

授業を通して（成果・課題）

- ・場については、自分がどのような場で跳んだら楽しいか考えて、友達と協力して場を作っていた。こんな風に跳びたいと考えて作った場であるため、動きがより活発になったように思われる。また、2台から3台の続いた場であるため、順番待ちをしながら前の子の動きをじっくりと見ることができていた。
- ・場を作るのはグループみんなの意見を聞きながらであるため、自分の思いが反映されなかった子もいた。また、6人ずつの3グループで場を設定していたため、場の数が少なく、運動量は少なくなっていたかもしれない。
- ・技については、またぎ乗りは失敗と考えている子が多くいた。開脚跳びができて成功と考えていたため、またぎ乗りやまたぎ下りも一つの技であることを確認していった。